

きさらぎ
—平成 31 年如月（2 月）のことば—



あり いちねん てん とど
『蟻の一念 天まで届く』

今年も瞬く間に一ヶ月が過ぎてしまいました。新年には今年こそはとメタボ改善なんていう決意？もあったのですが、そう簡単に結果は出せません。

私は子供の頃から蒲柳の質でガリガリに痩せていました。そこで中学生になってつけられたあだ名は「ガイコツ君」とか「コツツー」でした。それが今で言うところのイジメという印象は全くなく、もっと太りたいなあと思っただけでしたが、囃し立てられるのは嫌いではなかったようです。ある日、バス遠足？でクラスのみんなと出かけた時のことでした。今ではカラオケが当たり前かも知れませんが、当時はそのような設備も搭載されておらず、いわゆるアカペラでマイクを持ってのど自慢を披露する程度のものでした。歌詞本が回ってきたのでペラペラめくってみると、「がいこつの歌」というのが載っていました。題名もそうなのですが、詩の内容を読んでいくと御三家でも新御三家でもなく、ジュリーでもショーケンでもない、当時の流行歌とは全く異なるメッセージ性が感じられ、私的にはいささかショッキングな事件であり、ガイコツ君も悪くないなあなんて思うようになっていました。そのあたりからフォークソングなるものに興味を持ち始め、岡林信康がフォークの神様であったことも知り、ギターも抱え、高田渡やにしおかたかし、本場アメリカのウディーガスリーやボブディランなどの曲も求めて聴くようになっていました。かれこれ50年も前のお話です。(今月は少し長くなりそうなので、B面に譲ります)

ではA面を受けて早速問題の曲をご紹介致しましょう。

『がいこつの唄』 作詩・作曲：岡林信康

がいこつがケラケラ笑ってこう言った
どうせ てめえらみんなくたばって
オイラみたいに なっちまうのによ
だれがえらいもあるもんけ
どうしてそんなにでっかいつらをやりたがるのか
聞かせておくれよ
ええ年さらしてプロレスごっこの 政治家先生
損も得も あるもんけ
どうしてそんなにエゲツなくもうけたがるのか
聞かせて おくれよ
ヨダシたらして戦争まってる 資本家先生
だれがまじめもあるもんけ
どうして そんなにまじめな顔して
人間やめて機械になってる
ゲップに追われてヨタヨタ歩きの 労働者の皆さん
がいこつがまじめな顔してこう言った
どうせみんなくたばって
おいらみたいになっちまうんだから
せめて命のあるあいだ
つまらぬことにウロウロしないで
大事に大事に使っておくれよ
一度しかない オマハンの命

室町時代の名僧一休禅師は、正月早々竹竿の先にドクロをくくり付けて「ご用心！ご用心！」と目出度さに浮かれる繁華街を廻ったという逸話がありますし、「門松は冥土の旅の一里塚 目出度くもあり 目出度くも無し」とも詠んでいました。がいこつの歌は一休さんの真意を岡林さんが現代に蘇らせたものなのかも知れません。

えっ？今月の言葉？そうそう、蟻の一念でしたね。ガイコツ君の私は子供の頃から太りたいの一心でしたし、出家してからも着物や衣を着れば腹がないから着崩れしてしまいますので、太りたい太りたいと強く念じてきました。その結果、想いは見事に通じて、今ではご覧の通り。ですから新年の抱負のメタボ改善はちょっとやそっとの努力ではどうにもならないのかもと思はなくもないのです、というお話でした。